

エネルギー回収型廃棄物処理施設
整備工事及び運営事業

審 査 講 評

令和2年6月

宇城広域連合一般廃棄物処理施設整備工事に係る

総合評価委員会

目 次

1	事業内容	1
1)	事業概要	1
2)	事業名	1
3)	事業場所	1
4)	事業対象施設（整備対象施設）	1
5)	施設の立地条件	1
6)	事業期間	2
7)	事業方式	2
8)	契約の形態	2
2	事業スケジュール	2
3	委員会の設置	3
4	優秀提案者及び契約締結までの流れ	3
1)	資格審査	5
2)	見積仕様書の確認	5
3)	技術対話	5
4)	提案審査	5
5	審査結果の概要	10
1)	資格審査	10
2)	提案審査	10
6	総評	14

1 事業内容

1) 事業概要

本事業における施設の整備及び運営は公設民営（DBO方式）により実施する。

事業者として選定された企業又は企業グループ（以下「落札者」という。）は落札者単独又は特定建設工事共同企業体を設立し、本施設の設計・建設に係る業務（以下「設計・建設業務」という。）を行う。

さらに、落札者は、特別目的会社を設立し、20年の運営期間にわたって、本施設の運営に係る業務（以下「運営業務」という。）を行うものとする。

なお、落札者は、約35年間のプラント稼動を前提として設計・建設を行うこととする。ただし、当初の20年間の運営に当たっては、特別目的会社を設立して対応にあたるものとする。

2) 事業名

エネルギー回収型廃棄物処理施設整備工事及び運営事業

3) 事業場所

熊本県宇城市松橋町萩尾 1775-3

4) 事業対象施設（整備対象施設）

事業対象施設の概要は、次のとおりである

項目	概要
処理方式	全連続燃焼式ストーカ炉
処理能力	95t/日以下の提案とする
燃焼ガス冷却方式	廃熱ボイラ式
処理対象品目	可燃ごみ（生活系、事業系） 可燃性残渣（既存リサイクルプラザより） し渣 し尿脱水汚泥（助燃剤） その他ごみ 災害廃棄物
年間処理計画量（2024年度）	24,069 t/年（災害廃棄物を除く）

5) 施設の立地条件

施設の立地条件は、次のとおりである

項目	概要
敷地面積	約 68,000 m ² （うち建設面積 約 12,000 m ² ）
土地利用規制	都市計画区域 指定なし
	用途地域 指定なし
	防火地域 指定なし
	高度地域 指定なし
	建ぺい率 70%以内
	容積率 200%以内
	都市施設 指定なし ごみ処理施設
日影規制 指定なし	

6) 事業期間

設計・建設期間 : 令和2年(2020年7月)～令和6年3月末(3年9か月)

運営期間 : 令和6年4月～令和26年3月(20年間)

7) 事業方式

本施設の整備・運営は公設民営(DBO方式)により実施する。

8) 契約の形態

連合は、落札者に設計・建設工事業務及び運営業務を一括して委託し、若しくは請け負わせるために、本事業に関する基本協定を落札者と締結する。

また、連合は基本協定に基づき、落札者のうち本施設の設計・建設業務を担当する者(以下「建設請負事業者」という。)と、本事業に係る建設工事請負契約(以下「建設工事請負契約」という。)を締結する。

さらに、連合は基本協定に基づき、落札者が運営業務のために設立する特別目的会社(以下「運営事業者」という。)と、本事業に係る運営業務委託契約(以下「運営業務委託契約」という。)を締結する。

2 事業スケジュール

入札公告から優秀提案者の選定までは、以下のとおり実施した。

(1) 入札の公告	2019年	5月	31日	(金)
(2) 資格審査に係る質問の受付締切	2019年	6月	10日	(月)
(3) 資格審査に係る質問への回答	2019年	6月	14日	(金)
(4) 資格審査申請書の受付締切	2019年	6月	21日	(金)
(5) 資格審査結果の通知	2019年	6月	27日	(木)
(6) 募集要項(要求水準書等)に関する質問受付締切	2019年	7月	3日	(水)
(7) 募集要項(要求水準書等)に関する質問への回答	2019年	7月	17日	(水)
(8) 見積仕様書の提出	2019年	9月	2日	(月)
(9) 技術対話の実施	2019年	12月	2日	(月)
(10) 技術提案書・入札書等の提出	2020年	1月	31日	(金)
(11) 技術提案書に関するプレゼンテーション	2020年	3月	15日	(日)
(12) 価格審査(開札)	2020年	4月	20日	(月)
(13) 総合評価及び優秀提案者の選定	2020年	5月	13日	(水)

3 委員会の設置

優秀提案者の選定に係る審査を専門的知見に基づいて実施するに当たって、学識経験者等で構成される総合評価委員会を次のとおり設置した。

〔委員の構成〕

委員長	鳥居 修一	熊本大学大学院教授（先端科学研究部）
副委員長	石橋 康弘	熊本県立大学（環境共生学部教授）
委員	谷崎 淳一	宇土市副市長
委員	浅井 正文	宇城市副市長
委員	吉住 慎二	美里町副町長
委員	草野 一人	宇土市建設部長（前宇土市環境交通課長）
委員	森下 功治	宇城市衛生環境課長
委員	北島 浩徳	美里町水道衛生課長
委員	水口 雅晴	宇城広域連合事務局長
委員	深田 徹	宇土市税務課長（前宇城広域連合事務局次長兼総務課長）
委員	山口 伸治	宇城広域連合環境施設整備課長

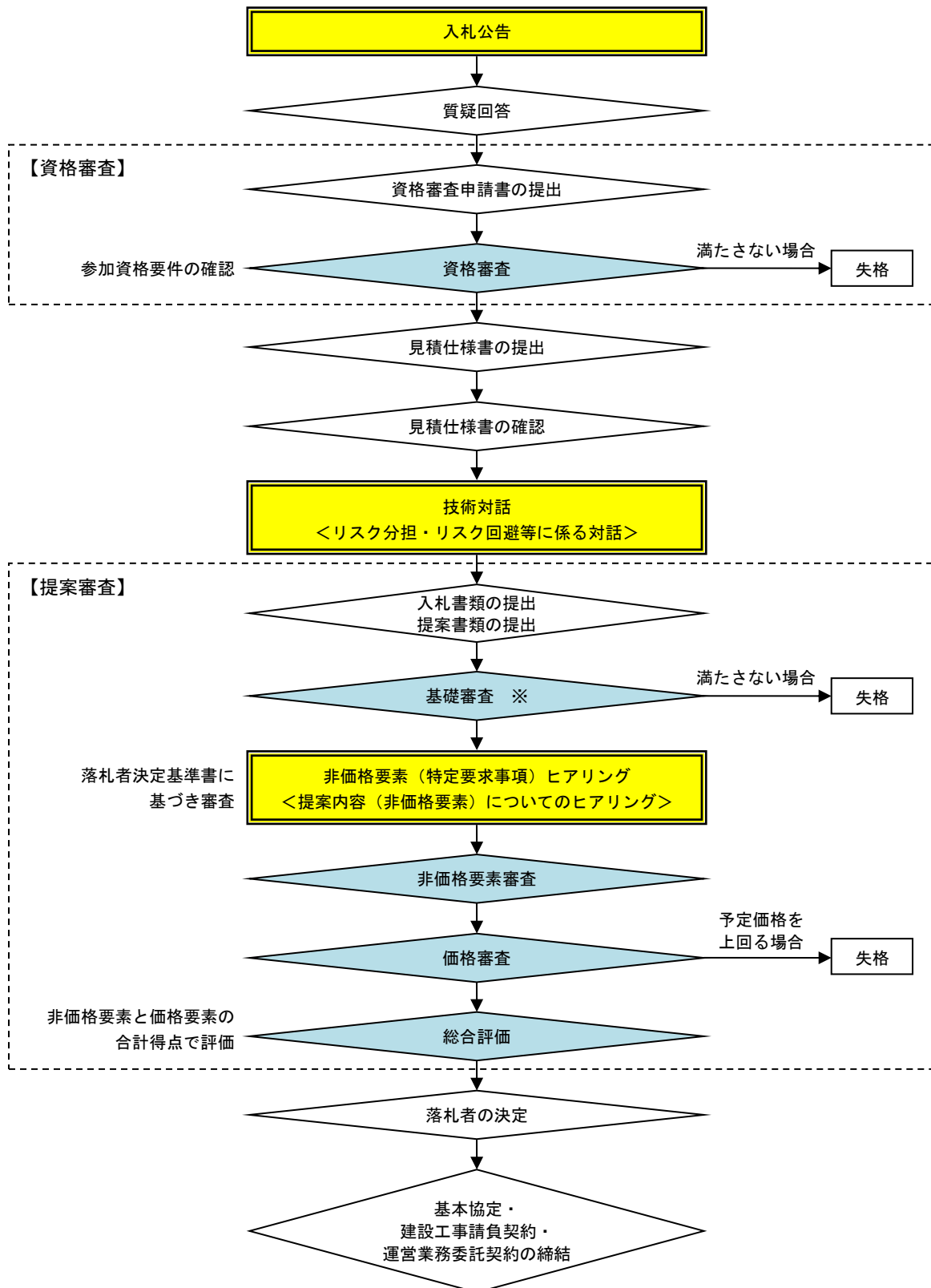
4 優秀提案者及び契約締結までの流れ

事業者の選定方法は、本事業の特性を踏まえ、価格のほかに、施設の性能、機能、技術等の提案及び安全、環境、循環型社会への配慮等を総合的に評価することが必要であることから、総合評価落札方式による一般競争入札とした。

契約締結までの流れは図-1 に示すとおりである。

なお、より一層の公平性・透明性を高めるため、総合評価委員会に対して提案書類の提出者が特定できないよう審査を行った。

図-1 契約締結までの流れ



※基礎審査：要求水準書に示されている基本内容の確認 等

1) 資格審査

資格審査では、応募者からの参加資格申請書等に基づいて、入札参加説明書第5章1.入札参加者の備えるべき参加資格要件に示された事項を満足しているかどうかの確認を事務局にて行った。

2) 見積仕様書の確認

資格審査を合格した応募者より見積仕様書を受領後、要求水準書と齟齬がないかの確認を事務局にて行った。

3) 技術対話

リスク分担・リスク回避、設計仕様等に係る基本的な考え方を統一することを目的とした技術対話を応募者と事務局で次のとおり実施した。

実施日 : 令和元年12月2日(月)
会場 : 宇城広域連合事務局2階交流プラザ
実施要領 : 見積仕様書に関する概要説明 20分程度
質疑応答 20分程度
見積仕様書に関する事前質問の回答 20分程度
応募者からの質疑応答 20分程度

4) 提案審査

提案書類の審査方法は、以下のとおり実施した。

(1) 基礎審査

入札説明書第5章4.入札に関する手続きに示された事項を満足しているかどうかの確認を事務局にて行った。

(2) 技術審査

基礎審査を合格した応募者を対象に特定要求事項に関する技術提案書を審査し、特定要求事項の得点化を行った。なお、特定要求事項の審査に当たっては、提案内容の理解を深めるために委員会によるヒアリングを次のとおり実施した。

実施日 : 令和2年3月15日(日)
会場 : 宇城広域連合事務局2階交流プラザ
実施要領 : プレゼンテーション 30分程度
質疑応答 30分程度
(応募者1者あたり約60分程度)

特定要求事項の配点は、600点とし、以下に示す各評価項目の点数の合算を特定要求事項評価点数とした。評価項目、配点及び採点基準は以下に示すとおりである。

① 評価項目及び配点

評価項目及び配点は表-1に示すとおりである。

表-1 評価項目及び配点（その1）

審査項目			評価の視点	配点
大項目	中項目	評価項目		
1. 住民にとって安心・安全な施設に関する事項	(1)環境保全への対応	①周辺地域に対して、工事施工中の影響を抑制するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事施工中における騒音対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における振動対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における粉じん対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における道路汚染・損傷防止策に対する工夫点 	20
		②施設稼働時に各種公害防止基準（排ガス、騒音、振動、悪臭、焼却残渣）を遵守するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 下記の項目に対して設計・運転制御上における工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ●排ガス基準 ●騒音・振動基準 ●悪臭基準 ●焼却残渣（ダイオキシン類）基準 	20
		③運営期間中の二酸化炭素排出量削減のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 二酸化炭素排出量（定量評価） ➢ 設備・装置の選定及び構成上における工夫点 ➢ 運転制御・管理上における工夫点 	15
	(2)災害防止への対応	①工事施工中及び運営期間中の自然災害に対する対策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 下記の項目に対して工事施工中・運営期間中それぞれの対策の工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ●地震対策 ●火災対策 ●台風対策 ●強風対策（高速道路や高圧線への飛散防止対策） 	20
		(3)安全性の確保	①工事施工中の工事車両、既存施設への収集運搬車両、搬出車両及び一般来場者に対する安全確保等に関する方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事施工中の車両動線、車両渋滞防止策についての工夫点 ➢ 車両、場内作業者及び一般来場者への安全確保に向けた工夫点
	(3)安全性の確保	②運営期間中の搬入出車両の混雑対策及び通行時の安全性に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 運営期間中の車両動線、車両渋滞防止策についての工夫点 ➢ ごみ処理施設及びリサイクルプラザへの円滑・安全な誘導についての工夫点 ➢ リサイクルプラザからの残渣等を搬出するための車両が来場した際の連絡方策 	10
		③運営期間中における想定されるトラブルとその対応に関する方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通事故等車両の接触によるトラブルに対する対策 ➢ 料金徴収やプラットホーム等持ち込み者とのトラブルに対する対策 ➢ トラブルにより施設停止を回避するための対策 	10
		④外乱による設備の故障や電気制御・通信システムに関する障害が発生しにくくするための方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 設備・装置の選定及び構成上における工夫点 ➢ 運転制御・管理上における工夫点 	10
		(4)防災場所としての対応	①災害発生時の防災拠点としての機能に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 災害発生時に防災拠点として活用できるようにするための工夫点
	(5)事業・運営実施に当たった信頼性	①工事工程を遵守するための方策	➢ 工事計画を立案するための工夫点	10
➢ 工程を遵守するための工夫点			10	
②他施設の運営期間中におけるトラブルを踏まえた方策		➢ 過去の設備上の問題を踏まえた方策	10	
		➢ 過去の運営管理上の問題点を踏まえた方策	10	
③運営管理体制の方策		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 円滑に施設を運営管理するための全体組織体制の構築 ➢ 健康管理等を考慮した有資格者、人員の配置 	10	
④運営期間中の事業継続性（BCP）に関する方策	➢ 運営期間中に想定される各種トラブルについて適切な対応の構築	10		
⑤特別目的会社（SPC）の経営安定化に向けた方策	<ul style="list-style-type: none"> ➢ SPCの経営安定化のためのサポート体制の構築 ➢ 適切なリスク管理体制の構築 ➢ 収支安定のための工夫点 	10		

表-1 評価項目及び配点（その2）

審査項目			評価の視点	配点
大項目	中項目	評価項目		
2. ごみを安定的に処理できる施設に関する事項	(1)ごみ処理の安定性	①短期間（半日～1日程度）及び長期間（年単位）でのごみ質変動に対応するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶短期間におけるごみ質変動に対する工夫点 ▶長期間におけるごみ質変動に対する工夫点 	15
		②低負荷時運転時に対応するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶低負荷時に安定的な発電を行うための工夫点 	20
		③定期点検・補修時において、工期の短縮や安定的な操業に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶定期点検・補修時における工期の短縮に向けた方策 ▶定期点検・補修時において稼働中のごみ焼却炉の安定稼働及び安定発電に向けた方策 	20
		④運営期間中、リサイクルプラザを安定して稼働させるための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶リサイクルプラザへ安定して給電、給水するとともに、排水処理できるような方策 ▶ごみ処理施設において発電ができない場合（全炉停止期間等）において、リサイクルプラザが安定して稼働できるような方策 	20
		⑤施設の長期使用（35年以上）を実現するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶施設を長期使用するための設計上の工夫点 ▶施設を長期使用するための運営管理上の工夫点 	30
	(2)災害時の処理の安定性	①災害時に可燃ごみを処理しながら搬入される災害ごみを安定的かつ迅速に処理するために180日以上連続運転を行うための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶災害ごみを安定的かつ迅速に処理するために180日以上連続運転を実現するための方策 ▶災害時の一般可燃ごみと災害廃棄物を同時処理するための方策 	20
3. 環境にやさしい施設に関する事項	(1)周辺環境との調和	①周辺環境との調和を考慮したコンセプト、意匠に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶敷地条件、周辺環境を踏まえた施設コンセプトが適切に提案されているか ▶周辺環境との調和を図る上での意匠の工夫点 	20
	(2)循環型社会への貢献	①工事施工中（既存施設の一部解体撤去・新設、土工事を含む）に生じた廃棄物の再資源化を図るための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶発生した廃棄物について、極力再資源化を図るための工夫点 	15
		②エネルギー回収率の向上と有効利用のための方策	▶エネルギー回収率（定量評価）	15
			▶エネルギー回収率を向上させるための設計上・維持管理上の工夫点	15
			▶売電量を向上・安定化させるための工夫点	15
		③焼却灰及び飛灰の搬出量を低減させるための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶焼却灰・飛灰の搬出量（定量評価） ▶焼却灰量を低減させるための工夫点 ▶飛灰量を低減させるための工夫点 	15
④セメント原料化に適した性状を維持するために、ごみ質が変動しても焼却灰及び飛灰の性状を安定化するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶セメント原料化に適した性状を維持するために、ごみ質が変動しても焼却灰及び飛灰の性状を安定化するための方策 	20		
4. 環境教育の拠点となる施設に関する事項	(1)環境教育への貢献	①効率的かつ継続的な環境教育を実践できる施設とするための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶リサイクルプラザとの連携が図られた方策 ▶展示や環境教育プログラムについての提案 	30
		②見学者が環境とごみ処理の関係について学習できるための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ごみ処理あるいは環境保全等について理解できるようにするための工夫点 ▶見学者が安全に見学できるための工夫点 	30
5. 地域特性に配慮した計画に関する事項	(1)地域貢献への配慮	①工事施工中において、連合圏内における事業者の活用及び資材の調達についての方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶工事施工中における連合圏内への資材等の発注金額（建設費に対する割合） 	20
		②運営期間中において、連合圏内における事業者の活用及び資材の調達についての方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶運営期間中における連合圏内への資材等の発注金額（運営費に対する割合） ▶地元業者の育成・技術力向上への提案 	20
		③運営期間中において、連合圏内からの雇用についての方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶運営期間中における雇用計画についての提案 	30
		④地域住民と良好な関係を構築するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ▶焼却するだけでなく多目的に利用できる施設とするための提案 ▶地域住民に事業について理解を得るための工夫点 	30

②評価項目と採点基準

各評価項目において、表-2に示す5段階により評価を行い、配点は各委員の評価率を乗じた点数の平均値（小数第三位を四捨五入）の得点化を行った。

ただし、委員のうち最高の評価をした者と最低の評価をした者の評価（点数）は含まないものとした。

また、定量化評価としている項目については表-3に示す5段階により評価、得点化した。

表-2 評価項目の採点基準

	評価段階	評価基準	点数化方法
優 ↑ ↓ 劣	A	当該評価項目において、要求水準書の内容を超える入札参加者独自の実現可能な優れた提案があり、非常に大きな効果が期待できる。	配点×1.00
	B	当該評価項目において、要求水準書の内容を的確に理解し、具体的・現実的な提案が記載され、大きな効果が期待できる。	配点×0.75
	C	当該評価項目において、要求水準書の内容を理解した提案が認められ、一定の効果が期待される。	配点×0.50
	D	当該評価項目において、要求水準書の内容に対して最低限の提案はなされているものの、具体的な提案は行われておらず、効果はあまり期待できない。	配点×0.25
	E	当該評価項目において、要求水準書の内容が十分理解されておらず、提案された内容では効果が期待できない。	配点×0.00

表-3(1) 二酸化炭素排出量の定量評価

評価段階	二酸化炭素排出量	基準値に対する削減率 (%)	評価率 (%)
A	定量化限度値 (310kg-CO ₂ /t)	10.0 以上	100
B	—	7.5 以上 10.0 未満	75
C	—	5.0 以上 7.5 未満	50
D	—	2.5 以上 5.0 未満	25
E	基準値 (345 kg-CO ₂ /t)	2.5 未満	0

表-3(2) エネルギー回収率の定量評価

評価段階	エネルギー回収率 (%)		評価率 (%)
A	定量化限度値 (15.5)	15.5 以上	100
B	—	14.1 以上 15.5 未満	75
C	—	12.8 以上 14.1 未満	50
D	—	11.4 以上 12.8 未満	25
E	基準値 (10.0)	10.0 以上 11.4 未満	0

表-3 (3) セメント原料化費用の定量化評価

評価段階	セメント原料化費用 (千円/年)	基準値に対する 削減率 (%)	評価率 (%)
A	定量化限度値 (60, 771)	40 以上	100
B	—	30 以上 40 未満	75
C	—	20 以上 30 未満	50
D	—	10 以上 20 未満	25
E	基準値 (101, 285)	10 未満	0

(3) 事業費予定価格等

本事業の事業費予定価格は、以下のとおり設定し公表した。

建設費 10,703,893,000円 (消費税及び地方消費税を含まない。)

運営委託費 8,772,420,000円 (消費税及び地方消費税を含まない。)

また、本事業は宇城広域連合低入札価格調査実施要領に基づく対象工事であることから、建設費に対して調査基準価格及び失格基準価格を設けた。

調査基準価格及び失格基準価格は、以下のとおり設定し、事後公表とした。

調査基準価格 9,633,503,700円 (消費税及び地方消費税を含まない。)

失格基準価格 8,345,825,100円 (消費税及び地方消費税を含まない。)

(4) 価格審査

入札価格の評価点数の配点は、400点とした。そのうち、建設費の価格配点を180点、運営費の価格配点を220点とし、建設費、運営費それぞれについて評価を行った。

入札価格の評価点数については、次式により算定した。

なお、評価点数は小数第3位を四捨五入して、得点化した。

【入札価格の評価点数の算定式】

価格評価点 = 建設費の価格評価点 + 運営費の価格評価点

建設費の価格評価点数 = (建設費の最低入札価格 ÷ 入札参加者の入札価格)² × 180点

運営費の価格評価点数 = (運営費の最低入札価格 ÷ 入札参加者の入札価格)² × 220点

5 審査結果の概要

1) 資格審査

表-4に示す応募者から資格確認申請があり、本事業の入札参加資格要件を満たしていることを事務局にて確認した。

なお、見積仕様書提出時まで「すみれ」から辞退届が提出された。

表-4 応募者（受付順）

記号	代表企業	構成員
さくら	株式会社川崎技研	—
ばら	日立造船株式会社九州支社	エスエヌ環境テクノロジー株式会社 ニチゾウ九州サービス株式会社
ぼたん	株式会社協和エクシオ	—
すみれ	株式会社神鋼環境ソリューション	神鋼環境メンテナンス株式会社

2) 提案審査

(1) 基礎審査

基礎審査として応募者から提出された技術提案書等が入札説明書第5章4.入札に関する手続きに示された事項を満足しているかどうかの確認を事務局にて行った。

基礎審査は表-5に示すとおり、応募者全て合格であった。

表-5 基礎審査結果

項目	さくら	ばら	ぼたん
提出書類が全て揃っていること	○	○	○
提出書類が入札説明書に示した方法で提出されていること	○	○	○
要求水準書に対する重大な不整合がないこと	○	○	○
基礎審査結果	合格	合格	合格

(2) 技術審査

技術審査の結果は、表-6に示すとおりであった。

表-6 技術審査結果（その1）

審査項目		評価の視点	評価点数			
大項目	中項目		さくら	ばら	ぼたん	
1. 住民にとって安心・安全な施設に関する事項	(1) 環境保全への対応	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事施工中における騒音対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における振動対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における粉じん対策に対する工夫点 ➢ 工事施工中における道路汚染・損傷防止策に対する工夫点 	13.89	13.33	11.67	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 下記の項目に対して設計・運転制御上における工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ● 排ガス基準 ● 騒音・振動基準 ● 悪臭基準 ● 焼却残渣（ダイオキシン類）基準 	16.11	12.78	11.11	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 二酸化炭素排出量（定量評価） 	0.00	3.75	15.00	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 設備・装置の選定及び構成上における工夫点 ➢ 運転制御・管理上における工夫点 	6.67	8.33	10.00	
		(2) 災害防止への対応	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 下記の項目に対して工事施工中・運営期間中それぞれの対策の工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ● 地震対策 ● 火災対策 ● 台風対策 ● 強風対策（高速道路や高圧線への飛散防止対策） 	12.78	12.78	9.44
	(3) 安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事施工中の車両動線、車両渋滞防止策についての工夫点 ➢ 車両、場内作業者及び一般来場者への安全確保に向けた工夫点 	6.94	6.39	4.44	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 運営期間中の車両動線、車両渋滞防止策についての工夫点 ➢ ごみ処理施設及びリサイクルプラザへの円滑・安全な誘導についての工夫点 ➢ リサイクルプラザからの残渣等を搬出するための車両が来場した際の連絡方策 	8.06	6.11	5.00	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通事故等車両の接触によるトラブルに対する対策 ➢ 料金徴収やプラットホーム等持ち込み者とのトラブルに対する対策 ➢ トラブルにより施設停止を回避するための対策 	7.50	6.67	5.00	
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 設備・装置の選定及び構成上における工夫点 ➢ 運転制御・管理上における工夫点 	6.94	6.39	5.28	
		(4) 防災場所としての対応	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 災害発生時に防災拠点として活用できるようにするための工夫点 	14.44	12.78	12.78
		(5) 事業・運営実施に当たっての信頼性	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事計画を立案するための工夫点 ➢ 工程を遵守するための工夫点 	6.67	6.67	4.72
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 過去の設備上の問題を踏まえた方策 ➢ 過去の運営管理上の問題点を踏まえた方策 		6.94	6.94	4.72	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 円滑に施設を運営管理するための全体組織体制の構築 ➢ 健康管理等を考慮した有資格者、人員の配置 		6.11	6.94	5.00	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 運営期間中に想定される各種トラブルについて適切な対応の構築 		6.39	6.39	4.72	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ S P C の経営安定化のためのサポート体制の構築 ➢ 適切なリスク管理体制の構築 		6.67	6.67	6.67	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 収支安定のための工夫点 					

表-6 技術審査結果（その2）

審査項目		評価の視点	評価点数		
大項目	中項目		さくら	ばら	ぼたん
2. ごみを安定的に処理できる施設に関する事項	(1) ごみ処理の安定性	▶ 短期間におけるごみ質変動に対する工夫点	10.00	9.58	9.17
		▶ 長期間におけるごみ質変動に対する工夫点			
		▶ 低負荷時に安定的な発電を行うための工夫点	13.33	12.22	12.78
		▶ 定期点検・補修時における工期の短縮に向けた方策			
		▶ 定期点検・補修時において稼働中のごみ焼却炉の安定稼働及び安定発電に向けた方策	13.33	12.78	8.89
	(2) 災害時の処理の安定性	▶ リサイクルプラザへ安定して給電、給水するとともに、排水処理できるような方策			
		▶ ごみ処理施設において発電ができない場合（全炉停止期間等）において、リサイクルプラザが安定して稼働できるような方策	11.67	13.33	8.89
		▶ 施設を長期使用するための設計上の工夫点	21.67	20.00	15.00
		▶ 施設を長期使用するための運営管理上の工夫点			
		▶ 災害ごみを安定的かつ迅速に処理するために180日以上連続運転を実現するための方策	13.89	15.00	10.56
		▶ 災害時の一般可燃ごみと災害廃棄物を同時処理するための方策			
3. 環境にやさしい施設に関する事項	(1) 周辺環境との調和	▶ 敷地条件、周辺環境を踏まえた施設コンセプトが適切に提案されているか	16.11	14.44	10.56
		▶ 周辺環境との調和を図る上での意匠の工夫点			
	(2) 循環型社会への貢献	▶ 発生した廃棄物について、極力再資源化を図るための工夫点	10.42	10.83	7.50
		▶ エネルギー回収率（定量評価）	15.00	15.00	15.00
		▶ エネルギー回収率を向上させるための設計上・維持管理上の工夫点	11.25	13.75	11.67
		▶ 売電量を向上・安定化させるための工夫点			
		▶ 焼却灰・飛灰の搬出量（定量評価）	3.75	7.50	7.50
		▶ 焼却灰量を低減させるための工夫点	9.17	9.17	8.75
		▶ 飛灰量を低減させるための工夫点			
		▶ セメント原料化に適した性状を維持するために、ごみ質が変動しても焼却灰及び飛灰の性状を安定化するための方策	12.78	12.78	8.89
4. 環境教育の拠点となる施設に関する事項	(1) 環境教育への貢献	▶ リサイクルプラザとの連携が図られた方策	21.67	20.00	17.50
		▶ 展示や環境教育プログラムについての提案			
		▶ ごみ処理あるいは環境保全等について理解できるようにするための工夫点	21.67	20.00	17.50
		▶ 見学者が安全に見学できるための工夫点			
5. 地域特性に配慮した計画に関する事項	(1) 地域貢献への配慮	▶ 工事施工中における連合圏域内への資材等の発注金額（建設費に対する割合）	15.56	12.22	12.22
		▶ 運営期間中における連合圏域内への資材等の発注金額（運営費に対する割合）	16.11	10.56	12.78
		▶ 地元業者の育成・技術力向上への提案			
		▶ 運営期間中における雇用計画についての提案	20.83	18.33	20.00
		▶ 焼却するだけでなく多目的に利用できる施設とするための提案	21.67	19.17	15.83
		▶ 地域住民に事業について理解を得るための工夫点			
合 計			405.99	389.58	346.54

(3) 価格審査

価格審査（開札）を行ったところ、失格基準価格を下回った応募者はなかったが、調査基準価格を下回った応募者は、ばら社及びぼたん社であった。

その後、低入札価格調査を実施し、入札価格が契約内容に適合した履行がされると認められたので、落札者決定基準に基づき、得点化を行った。

価格審査の結果は、表-7に示すとおりであった。

表-7 価格審査結果

項目		さくら	ばら	ぼたん
建設費	入札価格	9,635,000,000円	8,450,000,000円	9,160,000,000円
	評価点数	138.45点	180.00点	153.18点
運営費	入札価格	7,683,021,000円	5,450,000,000円	7,640,000,000円
	評価点数	110.70点	220.00点	111.95点
価格評価点数		249.15点	400.00点	265.13点

(4) 総合評価

提案書類の特定要求事項の評価点と入札価格の評価を加算した総合評価得点結果は表-8に示すとおりであった。

総合評価委員会は、総合評価得点が最も高い「ばら（日立造船株式会社九州支社）」を優秀提案者として選定した。

表-8 総合評価得点結果

項目	さくら	ばら	ぼたん
特定要求事項の評価点数 (技術評価点数)	405.99点	389.58点	346.54点
入札価格の評価点数 (価格評価点数)	249.15点	400.00点	265.13点
総合評価得点数	655.14点	789.58点	611.67点

6 総評

本施設は、循環型社会に寄与する施設として、住民にとって安心・安全となるよう配慮しつつ、ごみを安定的に処理しながらエネルギーの有効利用を図り、環境教育の拠点となる施設にするとともに、自然環境や社会環境との調和、周辺地域との共生を図り、経済性及び安定性を考慮した施設として整備することが望まれる。

本事業においては、国内のごみ処理技術に精通する4者から応募を受け、1者辞退があり、3者から技術提案書類を受けた。各応募者からの提案内容は、宇城広域連合のごみ処理施設整備基本方針を理解したうえで、豊富な経験とノウハウが多大に盛り込まれ、それぞれ創意工夫が非常に多く含まれた優れた提案であり、今回の応募者の方々には、宇城広域連合一般廃棄物処理整備工事に係る総合評価委員会（以下「総合評価委員会」という。）として、深く敬意と謝意を申し上げます。

総合評価委員会は、落札者決定基準に基づいて厳正かつ公平に審査を行った結果、ばら（日立造船株式会社九州支社）を優秀提案者として選定した。

優秀提案者に選定した「ばら（日立造船株式会社九州支社）」に対して、総合評価委員会は、意欲的な提案内容を誠実に履行するとともに、本事業を適正かつ円滑に実施していかれることを期待します。また、以下の事項に十分に配慮したうえで本事業を実施するよう強く要望します。

- (1) 本事業の運営期間は20年間とするが、本施設については、35年間のプラント稼働を前提とし、設計・建設業務及び運営業務を実施すること。
- (2) 本施設の建設に対し、既存施設を稼働しながらの工事であり、工事施工中の工事車両、既存施設への収集運搬車両及び一般来場者に対する安全を第一に実施すること。また、運営に対し、排ガス・騒音・振動・悪臭防止など、地元住民への配慮に努めること。
- (3) 住民にとって安心・安全で、ごみを安定的に処理するよう使命を負っていることを忘れず運営業務を実施すること。
- (4) 環境教育の位置付けを重視し、特に子どもたちへの環境学習を実施すること。
- (5) 熊本地震の経験を踏まえた本事業への取り組みとして、災害対策に万全を期すこと。
- (6) 発電効率、発電量及び売電量等の提案内容を確実に実施すること。
- (7) 地元貢献の配慮については、提案内容を確実に履行するとともに、地元雇用の拡充など、より一層地元経済の発展に努めること。

令和2年6月2日

宇城広域連合一般廃棄物処理施設整備工事に係る総合評価委員会 委員長 鳥居 修一

